

令和5年度普及活動外部評価  
実施報告書

令和5年12月

高知県農業振興部環境農業推進課

## 1 目的

普及活動が高度化・多様化するなか、外部の有識者等から、普及活動全般にわたり、幅広い視点から客観的な評価を受け、その結果を今後の効率的かつ効果的な普及活動の推進に資することを目的に、普及活動外部評価を実施する。

高知県普及活動外部評価実施要領

実施要領 P5

## 2 外部評価委員

分野	評 価 委 員	
		氏名
先進的な農業者	高知県指導農業士連絡協議会 高知県青年農業士連絡協議会	高知県指導農業士連絡協議会 監事 野島 貴美子 氏 <small>のじま きみこ</small>
若手・女性農業者	高知県農村女性リーダー	籠谷 理香 氏 <small>かごたに りか</small>
農業関係団体	高知県農業協同組合	営農販売事業本部 営農指導部長 小島 信行 氏 <small>おじま のぶゆき</small>
消費者	株式会社 とさのさと	セレクト部門 統括マネージャー 兼 AGRI COLLETTO 店長 横山 眞二 氏 <small>よこやま しんじ</small>
学識経験者	国立大学法人高知大学農林海洋科学部	農林資源環境科学科 教授（蔬菜園芸学） 西村 安代 氏 <small>にしむら やすよ</small>
マスコミ	日本農業新聞	高知通信部 記者 濱渦 光彦 氏 <small>はまうず みつひこ</small>
民間企業	NTT西日本 高知支店	副支店長 村井 孝奎 氏 <small>むらい たかすけ</small>

### 3 外部評価対象所属（評価資料、評価結果）

- (1) 中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所 評価対象1 P9
- ・普及指導活動の体制等（人員配置・活動の進捗管理・資質向上の取組状況等）
  - ・令和4年度普及指導活動実績の概要一覧
  - ・令和5年度普及指導活動計画の概要一覧
  - ・評価対象課題の実績（令和4年度）及び計画（令和5年度）の概要
- 普及指導活動成果事例及び現地事例調査：  
重点課題『れいほくブランドの園芸・花き産地の発展』
- ※普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言
- (2) 中央西農業振興センター高吾農業改良普及所 評価対象2 P18
- ・普及指導活動の体制等（人員配置・活動の進捗管理・資質向上の取組状況等）
  - ・令和4年度普及指導活動実績の概要一覧
  - ・令和5年度普及指導活動計画の概要一覧
  - ・評価対象課題の実績（令和4年度）及び計画（令和5年度）の概要
- 普及指導活動成果事例：重点課題『トマト産地のブランド力強化』
- ※普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言
- (3) 幡多農業振興センター農業改良普及課 評価対象3 P28
- ・普及指導活動の体制等（人員配置・活動の進捗管理・資質向上の取組状況等）
  - ・令和4年度普及指導活動実績の概要一覧
  - ・令和5年度普及指導活動計画の概要一覧
  - ・評価対象課題の実績（令和4年度）及び計画（令和5年度）の概要
- 普及指導活動成果事例：重点課題『幡多の中山間地域を支える地域営農システム確立  
～集落営農組織設立から広域連携組織の育成～』
- ※普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言
- (4) 普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言(全体を通して) 評価結果1 P39

### 4 外部評価会の日程

- (1) 日 時：令和5年10月23日（月）9：30～16：30
- (2) 場 所：土佐町中央基幹集落センター会議室（土佐郡土佐町土居284-1）
- (3) 出席者：外部評価委員7名、普及指導員等 28名
- (4) 内 容：
- ①現地調査（中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所管内）
    - ・米ナス栽培ほ場での取り組み
    - ・ユリ「ノーブル」栽培ほ場での取り組み
  - ②外部評価会（土佐町中央基幹集落センター会議室）

活動実績等の発表及び質疑

- ・中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所
- ・中央西農業振興センター高吾農業改良普及所
- ・幡多農業振興センター農業改良普及課

③外部評価委員会（土佐町中央基幹集落センター会議室）

評価委員による各所属に対する評価のまとめ

④外部評価結果の発表（土佐町中央基幹集落センター会議室）

各外部評価委員及び外部評価委員長から講評

## 5 外部評価委員による講評

<各外部評価委員の講評>

- 現地調査を通じて、若い職員が農家にしっかり寄り添って伴走支援していることを目の当たりにすることができ、とても驚くとともに頼もしさを感じることができた。販売経路は多様化しているので、「とさのさと」も活用した取り組みも考えてもらいたい。野菜王国高知の奪還を目指してがんばってほしい。
- JA高知県に統合してから5年目となったが、営農指導員の人数や資質面で組織力強化を図っていく必要性を感じている。データ駆動型による指導方法等は、営農指導員と普及指導員とが連携して取り組みを進めていくことで、職員の資質向上と組織力の強化に努めてもらいたい。
- 地域毎の課題に対して真摯に向き合い、試行錯誤して取り組んでいることがよくわかった。活動の結果が自然環境等の外部要因に左右されており、数値として評価することが難しいことは理解できたが、活動内容を評価しやすい指標の設定について工夫してもらいたい。中長期的視点で地域や産地の「あるべき姿」を定め、それに向けて取り組むべき課題の設定と、課題を達成するための活動となっているかを今一度確認していただき、来期の活動につなげてもらいたい。
- 篤農家技術をデータ等で共有しようとしている点が良かった。法人化の推進はとても興味深く感じ、個人的にも勉強になった。今後の農業のあり方を考えても法人化に取り組んでいる点は非常に評価できる。集落営農組織については地域が高齢化してしまう前に法人化できるように引き続き推進してもらいたい。また、結果的に評価は△となっている課題もあるが、農家の意識や行動をすぐに変えることは難しいと思うので、単年で結果が出なくても気長に寄り添って支援してもらいたい。
- 普及組織が地域の生産者に寄り添って活動しており、苦勞されていることが伝わった。生産者にとっては、資材高騰による経費の増加分が販売単価に反映されない厳しい時代である。そのような状況下でも将来の農家のことを考えて、生産だけでなく、経営、流通、販売等も含めた一体的な農業の在り方を目指した活動をしてもらいたい。
- 真面目に産地の課題に取り組んでいる点は素晴らしいが、気象要因で評価ができないというのは残念である。農業新聞等のメディアも活用して普及活動の成果や取り組み内容をPRしてほしい。

#### <外部評価委員長による講評>

○年々気象条件の変動が激しくなっており、勘に頼る栽培管理ではなく、IoT 技術を活用したデータ駆動型農業へ移行していくことは重要である。その一方で、資材や労働を投入して収量を増やしていく足し算の経営だけでなく、引き算の視点でも栽培技術や経営を分析・検討することも重視すべきである。対象とする農家や組織の目指すべき経営を見据え、農業を取り巻く情勢にも柔軟に対応した活動をお願いしたい。昔と比べて職員数が減少した中で、困難な問題に取り組むことはとても大変と思うが、今後の高知県農業のために尽力してほしい。

## 6 主な評価結果に対する普及指導計画（活動）の改善方向

今後の改善方向

評価結果 2 P41

# 高知県普及活動外部評価の実施について

## 第1 外部評価の目的

普及活動が高度化・多様化するなか、外部の有識者等から、普及活動全般にわたり、幅広い視点から客観的な評価を受け、その結果を今後の効率的かつ効果的な普及活動の推進に資することを目的に、普及活動外部評価（以下、「外部評価」という。）を実施する。

## 第2 外部評価の方法

### (1) 評価の対象

以下の表のとおり、毎年3農業改良普及課・所（以下、「普及課・所」という。）を対象とし、第一グループから第三グループの順で実施する。

第一グループ	中央東	中央西	高南
第二グループ	嶺北	高吾	幡多
第三グループ	安芸	高知	須崎

### (2) 実施体制

主催者は、環境農業推進課長とし、事務局を環境農業推進課内に置く。

事務局は、外部評価の実施に係る事務全般を行う。

### (3) 外部評価委員

環境農業推進課長が、先進的な農業者、若手・女性農業者、農業関係団体、消費者、学識経験者、マスコミ、民間企業の分野から外部評価委員を選定し、農業振興部長が依頼する。

外部評価委員の互選により委員長を選任する。

### (4) 実施方法

外部評価の対象となる内容は、①普及指導体制及び人員配置、②普及指導活動計画書、③活動実績（推進体制、活動経過、目標達成状況及び成果を含む）、④普及指導員の資質向上の取組とする。

普及課・所長は、これらの説明に必要な資料を作成し、外部評価委員に説明を行う。その際、環境農業推進課長と普及課・所長が事前に実績について総合的な評価を実施したうえで選定した課題はプレゼンテーションにより説明する。

なお、必要に応じて現地調査を実施し、対象の農家、関係機関等からヒアリング等を行う。

#### ア 実施場所

環境農業推進課長が設定する高知県内の1会場

#### イ 評価の対象とする期間

前年度の普及計画を対象とする。なお、プレゼンテーションする課題は、過去3か年程度の取り組み内容を発表する。

#### ウ 評価の項目と評価の視点

評価項目と評価の視点は、別紙1のとおりとする。

### 第3 評価結果のとりまとめと公表

#### (1) 評価結果のとりまとめ

委員長は、様式1の各委員の評価結果と委員会での協議をもとに評価結果を取りまとめ、環境農業推進課長に報告する。

#### (2) 評価結果の公表

環境農業推進課長は、外部評価報告書を作成し、各普及課・所及び農業革新支援チーム会へ周知する。

また、環境農業推進課長は、外部評価報告書及び関係資料をホームページ等で公表する。

ただし、個人情報等は公表しない。

### 第4 次年度以降の活動への反映

環境農業推進課長は、外部評価の結果を踏まえて中間検討会等の内部評価を実施するとともに、次年度の普及指導計画の作成方針に反映させる。各普及課・所長は、普及指導計画の作成方針に基づき普及指導計画を作成する。

さらに、環境農業推進課長は、外部評価の結果をもとに必要に応じて研修カリキュラムや活動体制の見直しを行う。

### 第5 その他

このほか、委員会の運営及びその他必要な事項については、環境農業推進課長が別に定める。

外部評価の視点について

項 目	評価の視点
<p>普及指導活動の体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課内（所内）の分担</li> <li>・ 活動の進ちよく管理の体制</li> <li>・ 普及指導員の資質向上の取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課内の体制及び普及課題ごとのチーム構成は、業務遂行上必要な構成や人数になっているか。</li> <li>・ 普及活動の進ちよく管理は定期的に行われているか。</li> <li>・ 普及指導員の資質向上は必要な内容・時期に行われているか。</li> </ul>
<p>普及指導活動の計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普及課題の設定</li> <li>・ 対象の設定</li> <li>・ 関係機関との連携</li> <li>・ 目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題の設定理由は明確になっているか。 （地域の現状、農業者や消費者のニーズ、施策等を考慮して設定されているか。）</li> <li>・ 対象は明確になっているか。</li> <li>・ 関係機関・団体等との役割分担や連携・調整を行い、活動しているか。</li> <li>・ 目標は、課題解決に向けた具体的な内容（数値化等）になっているか。</li> </ul>
<p>普及指導活動の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の経過</li> <li>・ 実績（活動の結果）</li> <li>・ 成果（目標達成状況）</li> <li>・ 結果の周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動方法・時期等は効果的・効率的なものとなっているか。</li> <li>・ 活動の結果は、普及活動の目的に沿った視点でまとめられているか。</li> <li>・ 目標は達成しているか。</li> <li>・ 取組結果や成果は、農業者や関係機関等に迅速に伝達されているか。</li> </ul>

様式 1

外部評価結果

委員氏名

対象所属	〇〇農業振興センター農業改良普及課／〇〇農業改良普及所
評価項目	評価及び感想・ご意見
普及指導活動の体制について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課内（所内）の分担</li> <li>・ 活動の進ちょく管理の体制</li> <li>・ 普及指導員の資質向上の取組</li> </ul>	
普及指導活動の計画について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普及課題の設定</li> <li>・ 対象の設定</li> <li>・ 関係機関との連携</li> <li>・ 目標設定</li> </ul>	
普及指導活動の結果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の経過</li> <li>・ 実績（活動の結果）</li> <li>・ 成果（目標達成状況）</li> <li>・ 結果の周知</li> </ul>	
総合所見（全体の感想、ご意見を自由に記載してください）	

## 中央東農業振興センター 嶺北農業改良普及所

## 外部評価対象所属の概要

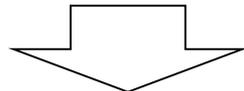
管内市町村 管内J A	大豊町、本山町、土佐町、大川村 J A高知県（土長地区れいほく営農経済センター）						
産地の特徴 主な園芸品目	<p>嶺北地域は四国中央部に位置し、標高250～900mの中山間地に点在する棚田を活用した稲作、夏秋野菜、花き、ユズ、畜産等による複合経営が行われています。主な園芸品目は、夏秋期の米ナス、ミニトマト、甘長トウガラシで、令和元年に県内で唯一、高知県GAP第三者確認制度に登録されています。そのほかの品目では、ユズや米のブランド化に取り組んでいます。</p> <p>また、中山間地域の農業・農村を支える仕組みづくりとして、集落営農組織間連携や中山間農業複合経営拠点（2拠点）の活動強化に取り組んでいます。</p>						
人員配置	令和5年度職員総数 11名（うち実務経験が3年未満の職員 3名）						
令和2年度 11名 令和3年度 11名 令和4年度 11名	<table border="1"> <tr> <td>農業改良普及所長</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>地域営農担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：全域)</td> </tr> <tr> <td>産地育成</td> <td>チーフ1名 普及指導員5名 (担当エリア：全域)</td> </tr> </table>	農業改良普及所長	1名	地域営農担当	チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：全域)	産地育成	チーフ1名 普及指導員5名 (担当エリア：全域)
農業改良普及所長	1名						
地域営農担当	チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：全域)						
産地育成	チーフ1名 普及指導員5名 (担当エリア：全域)						
普及活動の 進ちよく管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点課題については、チーム会を定期開催（1～2ヶ月毎）して活動状況を確認しあい、今後の活動手法について確認しています。</li> <li>四半期毎に、普及指導活動の進捗状況と課題を確認して活動を評価し、次の活動に向けて手法を見直すなどして目標達成に向けた計画活動を進めています。</li> <li>年度中間の第二四半期終了後には、中間検討会をもって農業革新支援専門員から助言を受け、普及指導活動の進捗状況と課題を確認して活動を評価し、下半期の活動に向けて手法を見直すなどして目標達成に向けた計画活動を進めています。</li> <li>週始めには所内ミーティングを実施し、活動内容の共有や業務の協力依頼、調整等を行っています。</li> </ul>						

<p>職員の資質向上 の取組状況</p>	<p>●職場研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>web 会議運営研修（講義・実技） 講師：所職員 内容：リモート会議の運営に必要な知識・操作技術について 会議運営やリモート会議の参加に活用。</li> <li>鳥獣対策研修（講義・現地調査）講師：鳥獣被害対策専門員、集落役員 内容：サル捕獲檻の現地確認と鳥獣被害の実態と支援策について 農家とのコミュニケーションツールとして集落支援時に活用。</li> <li>IoT クラウド “SAWACHI” 研修（説明・デモ） 講師：所職員 内容：システムや活用方法について。データ駆動型の営農指導に活用。</li> </ul> <p>●新任者を対象にしたOJT</p> <p>対象：1年目職員1名、2年目職員1名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年目までの職員にはそれぞれトレーナー（チーフ、主任級）を配置。</li> <li>普及指導員として必要な栽培管理技術と普及方法の習得について、栽培実証ほや現地検討会、個別巡回で生育調査、生育判断・病虫害診断、農家対応により、経験値を高めています。</li> <li>毎月の職員会の場で、一か月間に習得したこと、感じたこと、反省点などを発表して、他の職員や専門技術員から助言を受け、目標達成に向けた活動の改善につなげるよう確認しています。</li> <li>トレーナーとの面接により習得レベルを確認しながら職場内研修を進めています。</li> </ul> <p>●国段階研修（令和4年度）</p> <table border="1" data-bbox="443 1211 1422 1406"> <thead> <tr> <th>研修名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農産物輸出促進・知的財産研修</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>普及指導員養成研修 I</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>新規普及職員研修（中国四国ブロック）</td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table> <p>（参考）令和3年度の参加人数 3名</p> <p>●県段階研修（令和4年度）</p> <table border="1" data-bbox="443 1518 1422 1794"> <thead> <tr> <th>研修名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自主企画研修：デジタル機器を利用したユズの新たな技術指導方法の検討</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>自主企画研修：普及活動で活用できる動画マニュアルの作成</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>農家派遣研修</td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table> <p>（参考）令和3年度の参加人数 3名</p> <p>上記の他に、県内専門技術高度化研修などへ参加</p>	研修名	人数	農産物輸出促進・知的財産研修	1名	普及指導員養成研修 I	1名	新規普及職員研修（中国四国ブロック）	1名	研修名	人数	自主企画研修：デジタル機器を利用したユズの新たな技術指導方法の検討	1名	自主企画研修：普及活動で活用できる動画マニュアルの作成	1名	農家派遣研修	1名
研修名	人数																
農産物輸出促進・知的財産研修	1名																
普及指導員養成研修 I	1名																
新規普及職員研修（中国四国ブロック）	1名																
研修名	人数																
自主企画研修：デジタル機器を利用したユズの新たな技術指導方法の検討	1名																
自主企画研修：普及活動で活用できる動画マニュアルの作成	1名																
農家派遣研修	1名																
<p>タブレット等 ICT技術の活 用状況について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>花きの出荷調製やトマトは種作業等のカイゼンの検討のための動画撮影、作業実態確認、編集</li> <li>現地での環境データの収集や情報提供</li> <li>オンライン会議（各種 Web 会議・研修等）</li> </ul>																

## 外部評価対象課題の普及実績（R4年度）及び計画（R5年度）の概要

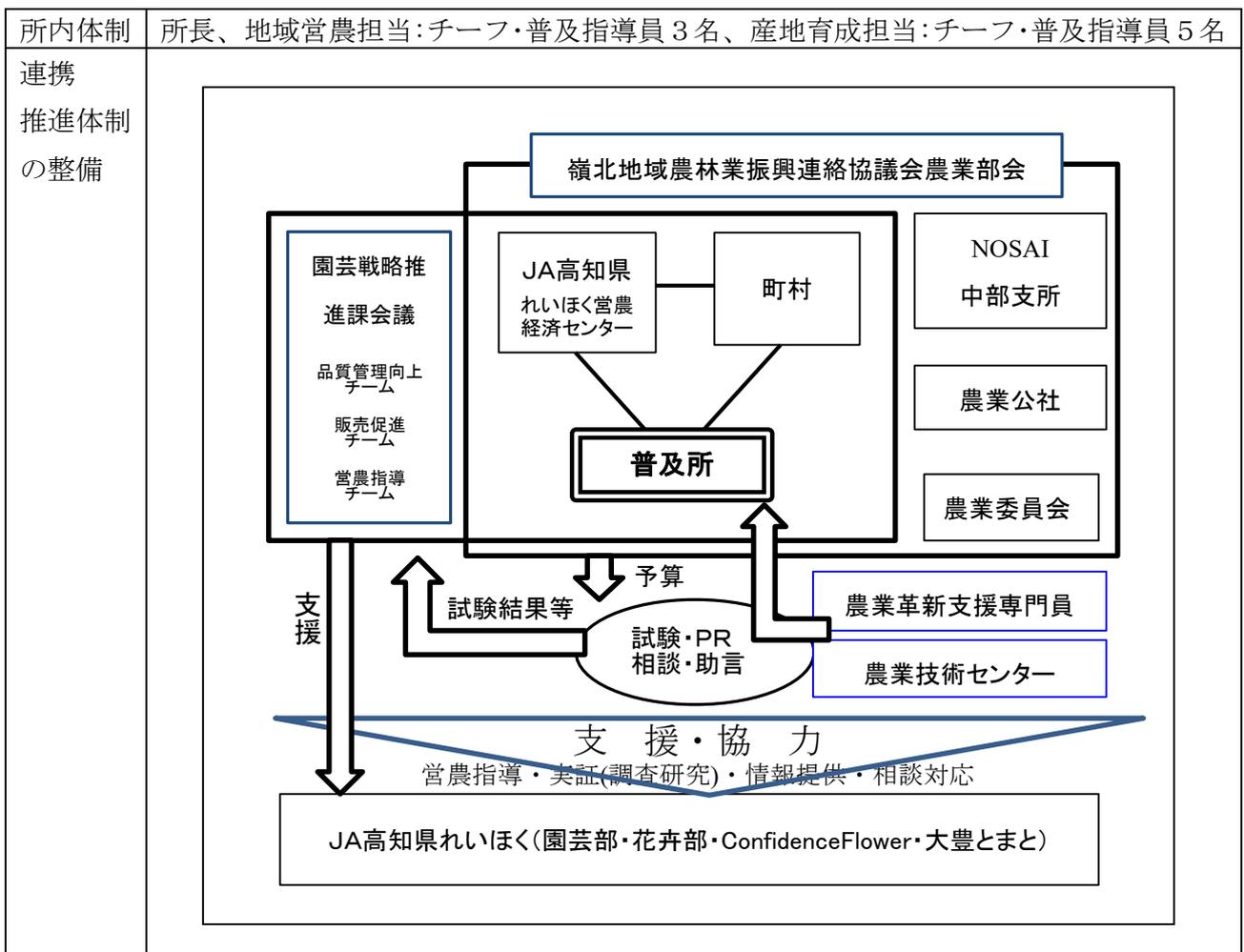
所属名	中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所			
課題名	れいほくブランドの園芸・花き産地の発展			
取組期間	令和2～5年度			
対 象	JA高知県れいほく（園芸部会、花卉部会、ConfidenceFlower、大豊とまと）			
ねらい	<p>①米ナスでは、高齢化に伴う労力不足により病虫害防除が遅れがちであることから、くん煙剤や常温煙霧機等の省力的な防除技術を推進。</p> <p>②ミニトマト及び甘長トウガラシでは、月別収量の差が大きいこと等による生産が不安定であることや高齢化に伴う産地縮小が問題であることから、新たな整枝・摘果技術による月別収量の平準化に向けて取り組むとともに、生産性向上を目的として基本管理技術を指導。花きでは、収量と品質の向上を目的に土壌の塩類集積改善及び土壌病害防除を指導。</p> <p>③若手生産者の経営安定を目指して、環境データを活用した栽培技術の習得、トヨタのカイゼン方式による労働環境の改善、簿記記帳を推進。</p>			
令和4年度の主な実績	<p>①米ナスでは、くん煙剤による防除が普及し適期防除が行われ、病害の発生が抑えられた。また、常温煙霧機の省力性と防除効果の有効性が認識され、常温煙霧機普及への農家の期待が高まった。</p> <p>②ミニトマトの梅雨期の着果制限により、8月の草勢を維持し9月の収量を増加させることが実証できた。</p> <p>③ソーラーパネルの活用により、電気が通っていないハウスで環境測定（制御）機器の利用が可能となったことが実証できた。</p>			
	項目	現状（R3）	目標（R4）	実績（R4）
	【米ナス】若手生産者の平均収量	9.3t/10a	9.6t/10a	10.1t/10a
	【甘長トウガラシ】 収量5t/10a以上の生産者数	2戸/12戸	5戸/20戸	3戸/20戸
	【ミニトマト】5t/10a達成農家数	1戸/7戸	5戸/7戸	2戸/8戸
	【花き】販売額	1.89億円	1.8億円	1.89億円
	経営目標達成農家数	2戸/15戸	7戸/15戸	5戸/15戸
	カイゼン実践農家数	2戸	4戸	4戸

令和4年度の主要な活動内容と実施時期	<p><b>①省力的防除技術の推進</b></p> <p>【米ナス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・硫黄粉剤、くん煙剤の使用推進（個別巡回：6回、現地検討会：4月、6月）</li> <li>・常温煙霧機によるうどんこ病防除効果の検討（実証ほ：5～11月、研修会：3月）</li> </ul> <p><b>②月別収量差の軽減と生産性の向上</b></p> <p>【甘長トウガラシ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整枝による着果負担軽減（個別巡回：12回、現地検討会：6月）</li> <li>・基本管理技術の徹底（個別巡回：26回、反省会：12月、研修会：3月）</li> </ul> <p>【ミニトマト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・摘果による着果負担軽減（個別巡回：47回、実証ほ：6～12月、研修会：7月、1月、3月）</li> </ul> <p>【花き】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌の塩類集積改善による生産性の向上（土壌分析：4～12月、現地巡回：4～12月、研修会：1月）</li> <li>・土壌病害対策による生産性の向上（実証ほ：4～9月、現地巡回：4回）</li> </ul> <p><b>③若手農家の経営安定</b></p> <p>【米ナス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーラーパネルを利用した環境測定の実証（実証ほ：R4.3～12月、研修会：12月、3月）</li> </ul> <p>【ミニトマト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境測定装置を活用した栽培指導（個別巡回：8回）</li> </ul> <p>【経営】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記帳経営管理指導（個別巡回：20回）</li> </ul> <p>【カイゼン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業標準書の作成、修正、活用（個別巡回：14回）</li> </ul>
--------------------	---



令和5年度の主な目標	<p>①常温煙霧機や太陽光パネルを活用した環境制御等を検討（実証）し、省力化を推進する。</p> <p>②整枝・摘果技術の推進により収量の山谷を低減するとともに、土壌病害・塩類集積対策や栽植密度の検討等により増収を図る。</p> <p>③経営分析結果に基づく経営改善指導により若手農家の経営改善を図る。</p> <p>④トヨタのカイゼン手法により若手農家の経営改善を図る。</p>																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状（R4）</th> <th>目標（R5）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【米ナス】若手生産者の平均収量</td> <td>10.1t/10a</td> <td>10t/10a</td> </tr> <tr> <td>【甘長トウガラシ】収量5t/10a以上の生産者数</td> <td>3戸/20戸</td> <td>6戸/20戸</td> </tr> <tr> <td>【ミニトマト】5t/10a達成農家数</td> <td>2戸/8戸</td> <td>5戸/7戸</td> </tr> <tr> <td>【花き】花き販売額</td> <td>1.89億円</td> <td>1.85億円</td> </tr> <tr> <td>経営目標達成農家</td> <td>5戸/15戸</td> <td>7戸/14戸</td> </tr> <tr> <td>カイゼン実践農家</td> <td>4戸</td> <td>5戸</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状（R4）	目標（R5）	【米ナス】若手生産者の平均収量	10.1t/10a	10t/10a	【甘長トウガラシ】収量5t/10a以上の生産者数	3戸/20戸	6戸/20戸	【ミニトマト】5t/10a達成農家数	2戸/8戸	5戸/7戸	【花き】花き販売額	1.89億円	1.85億円	経営目標達成農家	5戸/15戸	7戸/14戸	カイゼン実践農家	4戸	5戸
項目	現状（R4）	目標（R5）																				
【米ナス】若手生産者の平均収量	10.1t/10a	10t/10a																				
【甘長トウガラシ】収量5t/10a以上の生産者数	3戸/20戸	6戸/20戸																				
【ミニトマト】5t/10a達成農家数	2戸/8戸	5戸/7戸																				
【花き】花き販売額	1.89億円	1.85億円																				
経営目標達成農家	5戸/15戸	7戸/14戸																				
カイゼン実践農家	4戸	5戸																				

令和5年度の主要な活動内容と実施時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○常温煙霧機の実証（【米ナス】実証ほ：5～11月）</li> <li>○密植栽培農家の調査と部会への情報提供（【米ナス】実証ほ：4～11月、現地検討会：5月、反省会：12月）</li> <li>○ほ場の菌密度低減処理（残渣持ち出し）による病害軽減（【甘長トウガラシ】実証ほ：5～11月）</li> <li>○着果負担軽減による収量の山谷低減（【ミニトマト】実証ほ：5～11月、現地検討会：10月、反省会：1月）</li> <li>○土壌消毒の推進（【花き】個別巡回：4～2月）</li> <li>○経営分析と改善指導（【経営】連絡会4月、個別巡回：4～3月、個別面談：1～3月）</li> <li>○作業効率向上による経営改善（【カイゼン】現地調査：7～9月、個別巡回：4～2月）</li> </ul>
--------------------	--



令和4年度 普及指導活動実績の概要一覧

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	実績	達成状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
重点1	れいほくブランドの園芸・花き産地の発展	9	米ナス： 若手生産者3名の 平均収量	9.3t /10a	9.6t /10a	10.1t /10a	○	現地検討会や個別巡回等により、基本管理技術の徹底や省力的な病害対策の推進を図った結果、目標達成ができた。	
			経営目標達成農家	2戸 /15戸	7戸 /15戸	5戸 /15戸	△	課題と取組内容を対象者・関係機関と共有し栽培技術等の指導を行った。前年を上回る5戸が目標を達成したが、気象災害や土壌病害の発生等により目標には届かなかった。	
			カイゼン実践農家	2戸	4戸	4戸	○	ユリの出荷調製やミニトマトは種作業を動画撮影・解析し、効率化に繋がる提案ができた。	
重点2	中山間地域の農業・農村を支える仕組みづくり	10	地域の将来像の 話し合いの場	—	2	2	○	普及推進協議会や各町村連絡会等で関係機関と地域計画や活性化計画の意義、工程と推進方法を共有し、話し合いの場の設定を促したところ、土佐町では集落活動センターの運営委員会で、本山町では農村RMOの形成の取組の中で協議を進めることとなった。	
			本山町農業公社： 野菜苗販売額	1,807 万円	1,900 万円	1,839 万円	△	環境制御装置の活用や病害虫管理技術等の指導を行った結果、野菜苗販売額は前年を上回ったが目標には届かなかった。	
			大豊ゆとりファーム： 園芸販売額	536 万円	910 万円	426 万円	△	栽培計画の策定支援や個別巡回等で各品目の栽培管理の指導を行ったが、ファーム職員が作の途中で病気療養のため長期間人員不足となったこともあり目標を達成できなかった。	
一般1	持続性のあるユズ産地の育成	1	青果出荷量	30.5t	50t	24.8t	△	産地協議会において新・改植の推進と新規栽培者の育成に取り組むことを関係機関と共有した。また、現地検討会、個別巡回で施肥管理、病害虫防除について指導したが、目標を達成できなかった。	
一般2	売れる米作りの振興	2	ブランド米販売額	0.54億円	0.9億円	0.59億円	△	スマート農業機器(水田センサー、ドローン等)を活用し、品質の向上や省力化に取り組んだが栽培面積が伸びず目標を達成できなかった。	
一般3	GAPの実践体制の整備	5	重点指導農家数	14戸	19戸	19戸	○	JAと連携して未達成の項目について改善指導を行った。また、全対象部会で、日頃の取組で改善が必要な事例やリスクを説明し、農薬の安全使用を呼びかけた結果、生産者の意識向上につながった。	
一般4	多様な労働力の確保(農福連携の推進)	2	農福連携件数	5件	6件	5件	△	福祉保健所との情報共有や作業体験会を開催など新たな連携に向けた取組を行ったが、新たなマッチングには至らなかった。	
一般5	新規就農者の確保・育成	4	新規就農者数	4人	7人	7人	○	就農希望者へのヒアリングを関係機関と連携して実施し、意向把握とともに就農計画策定に向けて助言した。	

## 令和5年度 普及指導活動計画の概要一覧

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主な手法	チェック欄
重点1	れいほくブランドの園芸・花き産地の発展	8	米ナス： 若手生産者3名の 平均収量	10.1t /10a	10t以上 /10a	防除体系に基づく病害対策(現地検討会3回、作付 検討会1回)、一芽切り返しの徹底(目慣らし会1 回、個別巡回)	
			経営目標達成農家	5戸 /15戸	7戸 /14戸	経営改善目標の設定(個別面談)、取組状況の確認 及び経営改善指導(個別巡回)、経営改善結果 の取りまとめ及びフィードバック(個別面談)	
			カイゼン実践農家	4戸	5戸	標準書の活用・ブラッシュアップ(個別巡回)	
重点2	中山間地域の農業・農村を支える仕組みづくり	8	組織間連携体制の構築	ドローン 防除連携	ドローン を含めた OP・農機 の組織間 連携	連携計画の作成・取組結果の共有及び次年度計 画の検討(地域連携会4回)	
			本山町農業公社： 野菜苗販売額	1,839 万円	2,000 万円	苗の生産に向けた技術支援(個別巡回)	
			大豊ゆとりファーム： 園芸販売額	426 万円	950 万円	栽培管理指導(個別巡回)、栽培実績評価及び次 年度生産計画の作成支援(面談)	
一般1	持続性のあるユズ産地の育成	1	青果出荷量	24.8t	55t	栽培技術の徹底(現地検討会3回、目慣らし会1 回、個別巡回)、産地動向の把握(アンケート調査・ 分析)	
一般2	選ばれる米づくりの振興	3	ブランド米販売額	0.59億円	1.0億円	栽培管理指導(現地検討会1回、個別巡回)、栽培 計画作成支援(個人面談)	
一般3	GAPの実践体制の整備	6	重点指導農家数	19戸	24戸	農家への内部監査の実施(個別巡回)、意識啓発 (JA広報誌へ取組事例等を掲載)、労働安全講習	
一般4	多様な労働力の確保(農福連携の推進)	2	農福連携件数	5件	7件	福祉関係機関との情報共有(就労支援部会3回)、 新たな連携への実践支援(作業体験会2回)	
一般5	新規就農者の確保・育成	4	新規就農者数	7人	7人	新規就農者等の資質向上(農業基礎講座4回)、新 規就農者情報共有(町村連絡会)、就農計画作成 支援(個別面談)	

令和5年度普及活動外部評価会

普及事業の外部評価結果及び改善方向に関する助言・提言

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

(○評価会で発表 ●評価表に記載)

評価項目		評価及び感想・ご意見
普及指導活動の体制	・課内（所内）の分担	<ul style="list-style-type: none"> <li>●活動体制は適正と思われる。</li> <li>●管内が広範囲でかつ中山間地域であるため、普及指導活動する上で移動時間が長くなってしまふ点が懸念される。</li> </ul>
	・活動の進ちょく管理の体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>●重点課題のチーム会はもう少し短期間での開催が望ましい。</li> <li>●P D C A サイクル実施が一定できている。</li> <li>●重点課題を明確にし、チーム会等で手法についても適宜見直しができている。</li> </ul>
	・普及指導員の資質向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●O J T や研修によって資質向上に取り組んでおり、若手職員が活躍できていることがわかった。</li> </ul>
普及指導活動の計画	・普及課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●重点1は、増収と省力化を目的に、地域に必要な技術や機器を検討・導入する取り組みとなっている点がよかった。</li> <li>○れいほく八菜と八花は、現状に違いがある中で一つの課題で取り組むことが適当であるかは検討してもらいたい。</li> <li>●平野部の出荷物がない時期に出荷できる強みを活かす夏秋販売戦略をもって、嶺北地域としてどうしていきたいのかを考えてほしい。</li> <li>●新規就農者が少ない中で、離農しないで済む活動となっているかがわからなかったなので、そこがわかるようにしてほしい。</li> </ul>
	・対象の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象戸数や対象とした選定理由が不明確であり、計画書でもその点がわかる記載を心がけてもらいたい。</li> </ul>
	・関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関係機関等との連携ができていることがうかがえた。</li> </ul>
	・目標設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各品目の販売額や生産者数について、現状から予測される中期推移はどのようになっているかも明示してもらいたい。そこから目標指標とした理由等へつなげて説明してもらえるとわかりやすい。</li> <li>●評価指標は収量だけにとらわれず、他の指標も選択肢として検討してもらいたい。</li> </ul>

普及指導活動の成果	・活動の経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>●作業標準書の定期的な更新をしている点がよかった。</li> <li>●活動内容と目指す最終到達地点へのベクトルが合っていない点がある。</li> <li>○産地が衰退していく方向が見えている中で、後継者へのバトンタッチを早めに取り組むべきだったと感じる。</li> <li>○S A W A C H I の様々な機能を活用したいと考えていることが確認できてよかった。</li> </ul>
	・実績 (活動の結果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●米ナス栽培の実証試験について、年次変動や生産者で収穫量にバラツキがあり、技術確立の難しさを感じる。何かしら技術確立に向けてよりよい方法や評価方法を検討してもらいたい。</li> <li>●米ナスの病害対策技術について、省力化の定量的な効果検証をしてもらいたい（削減できた作業時間や防除回数等）。</li> <li>●省力化のためのソーラーパネル設置はすばらしいと感じた。</li> </ul>
	・成果 (目標達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●目標に達しなかった課題に対しての問題点や反省点が記載されていない。今後は目標達成できなかった理由を追及して、次年度の計画や活動につなげてもらいたい。</li> </ul>
	・結果の周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所として、所のHPや地区協議会での活動PR、実績書の配布等がされている。今後は、他のメディア等も活用しながら普及活動をPRしてもらいたい。</li> </ul>

#### 外部評価、総合所見等

- 管内は高齢化が進行しており、新しいことを始めるには難しいと思うが、現状を維持することも重要であるため、高齢農家向けに省力化の取り組みも普及活動として取り組んでもらいたい。
- 限られた人員の中で重点項目を設定し、よく活動ができていると思う。ただ、気象要因や対象組織の人員の疾病等に左右されて達成できていない課題がある。今後は、普及活動が評価できる指標の設定に工夫してもらいたい。
- 生産者個々に寄り添って普及活動できている点はとてもよいと感じた。
- 夏秋出荷販売は嶺北の強みであるため、所得向上に向けて農産物の販売先の確保や商談、消費者へのPR活動にも強化して、今後も頑張ってもらいたい。
- 花きについては、現時点では管内の花き栽培は順調に伸びているが、先々には冠婚葬祭等は必ず減っていくので、今のうちからその他の消費や利用方法の検討をする等、先を見越した活動もして考えてもらいたい。
- 個人的には現地調査で「ノーブル」を見学できたことがうれしかった。
- 親子で誇りを持ってできる「れいほく農業」の復活を願っています。

## 中央西農業振興センター 高吾農業改良普及所

## 外部評価対象所属の概要

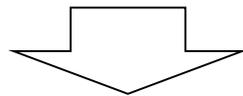
管内市町村 管内J A	仁淀川町、佐川町、越知町、日高村 J A高知県仁淀川地区								
産地の特徴 主な園芸品目	管内は仁淀川の上中流域に位置し、平坦部では冬春トマトやイチゴ、ニラ、夏秋ピーマン等の園芸品目が、中山間部では茶や夏秋トマト、食用山椒、薬用作物（山椒、ミシマサイコ等）など地域の特性を活かした品目の生産が行われている。								
人員配置  令和2年度 13名 令和3年度 13名 令和4年度 13名	令和5年度職員総数 13名（うち実務経験が3年未満の職員 2名） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">農業改良普及所長 1名</td> </tr> <tr> <td>地域営農担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：全域)</td> </tr> <tr> <td>産地育成第一担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：佐川町、日高村)</td> </tr> <tr> <td>産地育成第二担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：仁淀川町、越知町)</td> </tr> </table>	農業改良普及所長 1名		地域営農担当	チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：全域)	産地育成第一担当	チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：佐川町、日高村)	産地育成第二担当	チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：仁淀川町、越知町)
農業改良普及所長 1名									
地域営農担当	チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：全域)								
産地育成第一担当	チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：佐川町、日高村)								
産地育成第二担当	チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：仁淀川町、越知町)								
普及活動の 進ちよく管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点課題については毎月のチーム会（J A職員も参加）で、一般課題については四半期毎に職員会で、活動状況や課題、今後の取り組みを協議し、目標の達成に向け、成果を意識した活動を展開している。</li> <li>・重点課題のチーム会では、必要に応じ専門技術員が出席し、指導助言を受けている。</li> <li>・四半期毎に取りまとめた活動実績を職員会やチーム会で共有するとともに、必要に応じ専門技術員から指導助言を受けている。</li> <li>・普及課題ごとの普及指導活動記録や関連する会議報告書等を所内で共有し、担当以外でも普及活動の状況がわかるようにしている。</li> <li>・町村とは、連絡会や担い手育成協議会幹事会等で定期的に取り組み内容を共有している。</li> </ul>								

<p>職員の資質向上の取組状況</p>	<p>●職場研修（令和4年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ駆動型農業推進にかかるデータの活用法や活動事例について</li> <li>・ほ場整備事業の導入の流れや取り組み事例について</li> <li>・スマート農業機器、農業用無人車（散布機）の実演について</li> </ul> <p>●新任者を対象にしたOJT（令和4年度）</p> <p>対象：1年目職員1名、2年目職員1名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年目までの職員にレーナーを配置し、農家巡回や現地検討会、月例会等を通じ、普及指導員として必要な能力（栽培管理技術、普及方法、関係機関との連携手法など）の習得に取り組んでいる。</li> </ul> <p>●国段階研修（令和4年度）</p> <table border="1" data-bbox="443 763 1394 958"> <thead> <tr> <th>研修名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新任普及指導センター所長研修</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>新規普及職員研修（中四国ブロック）</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>普及指導員養成研修</td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table> <p>（参考）令和3年度の参加人数3名</p> <p>●県段階研修（令和4年度）</p> <table border="1" data-bbox="443 1122 1394 1267"> <thead> <tr> <th>研修名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普及活動で活用できる動画マニュアルの作成</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>デジタル機器を利用したユズの新たな技術指導方法の検討</td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table> <p>（参考）令和3年度の参加人数 1名</p> <p>上記の他に、普及指導員専門技術高度化研修などへ参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度化研修 （普通作物1名、花き1名、果樹1名、6次産業化1名、データ分析2名、土壌肥料2名、病虫害1名、スマート農業1名）</li> <li>・新任者研修2名</li> <li>・先進農家研修1名</li> <li>・特用林産研修1名</li> </ul>	研修名	人数	新任普及指導センター所長研修	1名	新規普及職員研修（中四国ブロック）	1名	普及指導員養成研修	1名	研修名	人数	普及活動で活用できる動画マニュアルの作成	1名	デジタル機器を利用したユズの新たな技術指導方法の検討	1名
研修名	人数														
新任普及指導センター所長研修	1名														
新規普及職員研修（中四国ブロック）	1名														
普及指導員養成研修	1名														
研修名	人数														
普及活動で活用できる動画マニュアルの作成	1名														
デジタル機器を利用したユズの新たな技術指導方法の検討	1名														
<p>タブレット等ICT技術の活用状況について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地での環境データの収集共有、情報提供</li> <li>・生産部会の月例会等でのSAWACHIの紹介</li> <li>・オンライン会議、研修</li> <li>・農作業動画の撮影</li> </ul>														

## 外部評価対象課題の普及実績（R4年度）及び計画（R5年度）の概要

所属名	中央西農業振興センター高吾農業改良普及所			
課題名	トマト産地のブランド力強化			
取組期間	令和2～5年度			
対 象	J A高知県日高支所ハウス園芸部会 J A高知県仁淀川夏秋トマト生産部会			
ねらい	<p>○基本的な栽培技術の習得支援や環境・出荷データを活用したデータ駆動型農業の推進により品質・生産量の向上を目指す。</p> <p>○新規就農者や経営改善志向農家に対し、経営コンサルティングによって経営目標を明確にし、経営管理ができる農業者を育成する。</p> <p>○研修生・就農希望者を確保し、育成することで産地規模・生産量の維持を図る。</p>			
令和4年度の主な実績	<p>○生産技術の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・促成高糖度トマトでは目標の高糖度率を達成できた。</li> </ul> <p>○経営管理能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・促成高糖度トマトの経営改善志向農家8戸中4戸が経営目標を達成できた。</li> </ul> <p>○新規就農者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修生2名（独立自営就農希望1名、親元就農希望1名）を新たに確保でき、研修生は計3名となった（令和5年3月時点）。</li> <li>・日高村トマト団地で生じた遊休ハウスの担い手確保に関係機関が連携して取り組んだ結果、独立自営就農希望者2名を新たに確保できた。</li> </ul>			
	項目	現状（R3）	目標（R4）	実績（R4）
	高糖度率（8以上） ※促成:10/1～2/28 夏秋:6/1～12/31	促成 68% 夏秋 57%	促成 60% 夏秋 45%	促成 61% 夏秋 41%
	促成トマト目標生産量（4/1～2/28） 高糖度トマト 大玉トマト ミニトマト	4.5t/10a 18t/10a 16.5t/10a	6.0t/10a 30t/10a 16t/10	5.0t/10a 4.1t/10a 14.7t/10a
	経営目標達成率	50% (4戸/8戸)	100%	50% (4戸/8戸)
	研修生及び就農希望者数	1名/年	1名/年	4名/年

令和4年度の主要な活動内容と実施時期	<p>○農業経営力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月例会や現地検討会・個別学習会での栽培講習 (促成10回延べ133戸、夏秋3回延べ12戸通年)</li> <li>・個別巡回による生育診断や環境・出荷データに基づく栽培管理指導 (促成61回延べ332戸、夏秋36回延べ78戸)</li> <li>・個別経営カウンセリング(夏秋:4~5月19戸、促成:6~7月2戸)。</li> <li>・経営改善志向農家への中間カウンセリング(夏秋:1~2月2戸、促成:2月8戸)</li> <li>・労働力確保に向けたJA無料職業紹介所との情報共有(通年)</li> </ul> <p>○新規就農者確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修生への栽培学習会(4~7月、11月、1月 計6回)</li> <li>・研修状況の確認(7月、1月、3月)</li> <li>・就農相談対応(通年)</li> <li>・遊休ハウスの担い手確保の取り組み(8~10月)</li> <li>・就農計画の作成支援(10~3月)</li> </ul>
--------------------	---



令和5年度の主な目標	<p>○生産技術及び経営管理能力の向上を図り、経営安定に繋げる。</p> <p>○研修生のスムーズな就農に向け、研修状況確認や就農計画の作成支援を実施する。</p> <p>○就農1年目の新規就農者3名が経営計画の目標を達成できるよう、重点的な栽培技術・経営管理の助言指導を実施する。</p>																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目</th> <th>現状(R4)</th> <th>目標(R5)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高糖度率(8度以上) ※促成:10/1~2/28 夏秋:6/1~12/31</td> <td>促成61% 夏秋41%</td> <td>促成60% 夏秋50%</td> </tr> <tr> <td>促成トマト目標生産量(4/1~2/28)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高糖度トマト</td> <td>5.0t/10a</td> <td>6.0t/10a</td> </tr> <tr> <td>大玉トマト</td> <td>4.1t/10a</td> <td>30t/10a</td> </tr> <tr> <td>ミニトマト</td> <td>14.7t/10a</td> <td>17t/10a</td> </tr> <tr> <td>経営目標達成率</td> <td>50% (4戸/8戸)</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>研修生及び就農希望者数</td> <td>4名/年</td> <td>1名/年</td> </tr> <tr> <td>経営計画売上目標80%以上達成人数 (営農開始1年目の新規就農者)</td> <td>—</td> <td>3名</td> </tr> </tbody> </table>	目	現状(R4)	目標(R5)	高糖度率(8度以上) ※促成:10/1~2/28 夏秋:6/1~12/31	促成61% 夏秋41%	促成60% 夏秋50%	促成トマト目標生産量(4/1~2/28)			高糖度トマト	5.0t/10a	6.0t/10a	大玉トマト	4.1t/10a	30t/10a	ミニトマト	14.7t/10a	17t/10a	経営目標達成率	50% (4戸/8戸)	100%	研修生及び就農希望者数	4名/年	1名/年	経営計画売上目標80%以上達成人数 (営農開始1年目の新規就農者)	—	3名
目	現状(R4)	目標(R5)																										
高糖度率(8度以上) ※促成:10/1~2/28 夏秋:6/1~12/31	促成61% 夏秋41%	促成60% 夏秋50%																										
促成トマト目標生産量(4/1~2/28)																												
高糖度トマト	5.0t/10a	6.0t/10a																										
大玉トマト	4.1t/10a	30t/10a																										
ミニトマト	14.7t/10a	17t/10a																										
経営目標達成率	50% (4戸/8戸)	100%																										
研修生及び就農希望者数	4名/年	1名/年																										
経営計画売上目標80%以上達成人数 (営農開始1年目の新規就農者)	—	3名																										

<p>令和5年度の主要な活動内容と実施時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業経営力の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生育診断や環境・出荷データに基づく栽培管理指導（個別巡回、個別学習会、栽培講習会、現地検討会 4～3月）</li> <li>・経営目標の設定、経営目標達成状況の確認（個別カウンセリング 4～5月、2月）</li> <li>・促成産地の方向性に関する意向調査及び結果の共有・検討（5～1月）</li> <li>・労働力確保に向けた他産業との連携検討（4～2月）</li> </ul> </li> <li>○新規就農者の確保・育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修生の研修状況確認（5月、8月、10月、1月）</li> <li>・研修生への栽培学習会（8月、10月、1月）</li> <li>・就農スケジュールの確認、就農計画の作成支援（7～3月）</li> <li>・栽培技術及び経営管理の助言指導（個別巡回、栽培学習会、簿記講習 4～3月）</li> <li>・関係機関による就農1年目の新規就農者の栽培・経営管理状況の確認及び課題対応（6～3月）</li> </ul> </li> </ul>
---------------------------	--

<p>所内体制</p>	<p>野菜担当2名、経営・担い手担当1名、産地育成チーフ1名、地域営農チーフ1名</p>
<p>連携推進体制の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町村ごとの農業関係機関連絡会を毎月開催し、情報共有するとともに対応策を検討。</li> <li>・関係機関で連携・協力し農業経営力の向上、新規就農者の確保・育成に係る取り組みを推進。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> </div>

令和4年度 普及指導活動実績の概要一覧

中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	実績	達成状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
重点1	強いニラ産地づくりと次世代ニラ農家の経営安定	6	R4.12～R5.2月 出荷量	90t	160t	81t	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年12月からR5年1月の大雪や低温の影響で反収、秀品率が低下した。R5年度は環境測定データや出荷量データなどを使った指導により出荷量・秀品率のアップに取り組む。</li> <li>・センターへの出荷量は増加(前年対比141%)したが目標には届かなかった。R5年度はセンター稼働状況に応じた適期収穫を徹底して出荷量向上に取り組む。</li> <li>・個別面談や巡回により取組みを進めたが、定植や収穫等の作業の遅れやそぐり手不足により、目標に届かなかった。R5年度は対象農家(2戸)の経営目標達成に向け、栽培技術指導や個別面談、巡回を通じた支援を行う。</li> </ul>	
			R4.4～R5.2月 秀品率	54%	60%	55%	△		
			R4.4～R5.2月 そぐりセンター 出荷量	66t	150t	93t	△		
			経営目標達成 農家数	1戸/3戸	3戸/3戸	1戸/2戸	△		
重点2	中山間地域の農業・農地を支える仕組みづくり	4	担い手利用計画に 基づく活動	対策実施 2項目	対策実施 3項目	対策実施 3項目	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培管理スケジュールを共有するなど生産者とともに茶畑を守る取組みを進めることができた。</li> </ul>	
			集落営農 組織数	11組織	12組織	11組織	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の集落営農組織の設立事例を学ぶ機会を設けるなどの取組を実施したが設立には至らなかった。R5年度は基盤整備希望集落の状況把握などを町村とともに取り組む。</li> </ul>	
			ステップアップ 組織数	4組織	5組織	5組織	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例会や役員会で組織目標の見直しや行動計画の作成などを支援し、5組織で活動のステップアップが図られた。</li> </ul>	
重点3	トマト産地のブランド化	5	高糖度率 (8度以上)	促成68% 夏秋57%	促成60% 夏秋45%	促成61% 夏秋41%	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス内環境データや出荷データに基づく栽培指導を行った結果、促成の高糖度率は目標達成したが、夏秋トマトの高糖度率、高糖度及びミニトマトの生産量が目標に届かなかった。夏秋高糖度トマトは天候不順による生産量や高糖度率の伸び悩み、促成高糖度トマト、ミニトマトは1月、2月の寒さによる収量落ち込みが主な要因である。大玉トマトは法人の廃業によりR5園芸年度の栽培実績がなく、生産量が激減した。R5年度も引き続き高糖度率・生産量の向上に向け、データを活用した指導を進める。</li> <li>・経営改善志向農家8戸を対象に個別に面談を行うなど取組みを進めたが、うち4戸は目標収量未達等の理由により、個々が設定した所得目標には届かなかった。R5年度も引き続きの経営改善に向けた取組みを進める。</li> <li>・日高村トマト団地で発生した遊休ハウスの新たな就農者確保のため、関係機関と情報共有して対応を進めたことで、目標を上回る成果が出せた。</li> </ul>	
			生産量 (10a当たり)	高糖度 4.5t 大玉 18t ミニ 16.5t	高糖度 6t 大玉 30t ミニ 16t	高糖度 5t 大玉 4.1t ミニ 14.7t	△		
			経営目標達成率	50%	100%	50%	△		
			研修生及び 就農希望者数	1名/年	1名/年	4名/年	○		

一般1	「夢のかけ橋」イチゴ担い手の確保・育成	3	就農支援 マニュアル作成	無	有	有	○	・苺部会や町とともに活動を共有しながら取り組んだことで、就農支援マニュアルを作成することができた。
			新規就農者数	0	1	1	○	・研修生の就農に向け、栽培等の技術研修やハウスの確保など苺部会や町とともに取り組みR5年3月に就農した。
一般2	特用作物の栽培拡大と生産性の向上による産地の振興	1	10a当種子製品量 (ミシマサイコkg)	31.9	35	22.5	△	・追肥や摘心など基幹技術の徹底に取り組んだが栽培面積の減少等もあり目標には届かなかった。R5年度も種子収量向上に向け、栽培講習会や個別巡回などでの栽培技術指導に取り組む。
			食用サンショウ 製品量(t)	18 (表年)	17 (裏年見込)	15.3	△	・さび病の防除など栽培管理の徹底に取り組んだが、栽培面積の減少や裏年ということもあり目標に届かなかった。R5年度は、苗木を確保するための取り組みも加え生産量の維持拡大に取り組む。
一般3	仁淀川流域茶の生産力向上と販売への取組強化	1	台切り マニュアル作成	無	有	有	○	・R元年度に設置した実証ほの台切り後の回復状況を調査し、台切りマニュアルを作成し、部会などで生産者とマニュアルを共有した。
			輸出事業計画を 策定した法人数	0	1	0	△	・輸出向け茶防除暦を更新し、将来に向けた取り組みを進めたがJA高知県による県域を網羅した輸出事業計画は採択基準をみだすことができず、作成に至らなかったため、目標に届かなかった。更新した防除暦はJA佐川支所茶生産部会が活用することとなった。
一般4	スマート農業技術を活用した新たな果樹経営の確立	2	スマート農業機器 導入面積	0a	50a	60a	○	・佐川町スマート農業推進協議会で、スマート農業を推進し、果樹農家2戸が共同で自律走行型草刈機を導入した。

令和 5 年度 普及指導活動計画の概要一覧

中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主な手法	チェック欄
重点 1	強いニラ産地づくりと次世代ニラ農家の経営安定	6	R5. 12~R6. 2月 出荷量	81t	165t	・ハウス農家(11戸)への出荷データを活用した重点指導(個別巡回) ・株養成期の肥培管理の徹底、収穫後の品音管理やそぐりの徹底、ハウス内環境データを活用した温湿度管理の徹底(月例会、個別巡回)	
			R5. 4~R6. 2月 秀品率	55%	65%		
			R5. 4~R6. 2月 そぐりセンター出荷量	93t	180t	・生産者へのセンター情報の周知(個別巡回) ・センター活用による適期収穫の徹底(個別巡回)	
			経営目標達成農家数 (新規就農者)	1戸/2戸	2戸/2戸	・経営改善への助言指導(個別面談)	
重点 2	中山間地域の農業・農地を支える仕組みづくり	7	担い手利用計画に 基づく活動	対策実施 3項目	対策実施 4項目	・仁淀川町茶振興計画の作成と計画に基づいた活動支援(プロジェクトチーム会)	
			茶有機栽培暦の作成	無	有	・実証圃の設置及び調査 ・仁淀川町、生産者、茶業試験場との取組共有(連絡会)	
			集落営農組織数	11組織	12組織	・地域計画の取り組みを活用した集落営農の推進(町村を対象とした集落営農塾の開催)	
			ステップアップ 組織数	5組織	5組織	・組織ビジョンの更新など集落営農組織の活動支援(総会、定例会、役員会)	
重点 3	トマト産地のブランド化	5	高糖度率 (8度以上)	促成61% 夏秋41%	促成60% 夏秋50%	・ハウス内環境データや出荷データを活用した栽培指導(月例会、個別巡回、現地検討会)	
			生産量 (10a当たり)	高糖度5t 大玉4.1t ミニ14.7t	高糖度6t 大玉30t ミニ17t		
			経営目標達成率	50%	100%	・促成高糖度農家8戸を対象に経営目標の設定と達成に向けた栽培等技術指導(個別面談)	
			研修生及び 就農希望者数	4名/年	1名/年	・研修生への栽培等技術指導(個別学習会) ・JAや村と連携した研修状況確認(担い手協議会)	
			経営計画売上目標 80%以上達成人数 (営農開始1年目の 新規就農者3名)	—	3名	・新規就農者(3名)との経営計画の確認と栽培等技術指導(個別巡回、学習会) ・JAや村と連携した栽培・経営面の状況確認(関係機関検討会)	
一般 1	イチゴの生産安定と新規就農者の育成	3	R5. 11~R6. 2月出荷量 (JA高知県佐川支所苺部会)	—	28t	・ハウス内環境データを活用した温湿度管理の徹底(個別巡回、栽培講習会)	
			R5. 11~R6. 2月出荷量 (新規就農者)	—	1.7t/10a	・新規就農者1名を対象に就農計画の実施状況確認(面談、巡回指導)	
一般 2	サンショウ産地の振興	2	苗木定植本数	1,120本	2,000本	・苗木確保のための台木用種子の発芽試験結果の分析、検討、取り組み支援	

令和5年度普及活動外部評価会  
普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言

**中央西農業振興センター高吾農業改良普及所**      (○評価会で発表 ●評価表に記載)

	評価項目	評価及び感想・ご意見
<b>普及指導活動の体制</b>	・課内（所内）の分担	●活動体制は適正と思われる。
	・活動の進ちょく管理の体制	●定期的に実施されており、情報共有できている。 ●PDCAサイクル実施が一定できている。
	・普及指導員の資質向上の取組	●OJTや研修を通じて、職員の資質向上にしっかりと取り組んでいる。
<b>普及指導活動の計画</b>	・普及課題の設定	●トマト産地の課題で、目指すべき姿は「高糖度率の上昇」した産地なのか、「高糖度トマトの生産量増加」した産地なのか、販売業者に求められているのはどういう産地かを明確にしていきたい。
	・対象の設定	●日高村のトマトは、行政と移住者、地元農家の一体感がある。
	・関係機関との連携	●連絡会等で関係機関との連携がよくとれている。
	・目標設定	●重点1の二ア課題について、高い目標値を設定しているが、現状の出荷量が低すぎて、目標値に届きそうに見えない。天候や自然環境に左右されない環境制御技術等の栽培技術指導による秀品率向上を重視した方がいいと思う。 ●トマトについて、栽培・経営等の面から多様な目標設定がされており、産地ブランド力の強化への意気込みが感じられた。
<b>普及指導活動の成果</b>	・活動の経過	○農業経営力向上を目標として、どのようなことが必要かと考え、経営カウンセリング等を実施している点がよかった。
	・実績 (活動の結果)	○実績だけでなく、残された課題についてもしっかりと確認できている。 ○個別カウンセリングの実施の有効性がうかがえた。
	・成果 (目標達成状況)	○目標達成できなかった対象農家に対しても指導できており、よく活動できている。 ●高い目標を設定することも大事だが、対象農家の意欲を考慮することも重要である。また、所得向上を図る上で、平均単価の底上げを図ることで目標収量の設定を抑えることもできるかもしれない。
	・結果の周知	●トマトのブランド化に向けた周知が徹底できている。

#### 外部評価、総合所見等

- トマトのブランド力を強化するためには、販売方法等をもうすこし検討してもいいと感じた。
- 卸売市場に対するブランド力強化をテーマとしているが、消費者に対してもブランド力強化を図ってほしい。
- 経営の継承支援活動はとてもよいと感じた。
- 日高村と連携してトマトに特化した産地づくりができている。今後はシュガートマトのさらなるブランド力の強化に挑戦してほしい。

幡多農業振興センター 農業改良普及課

外部評価対象所属の概要

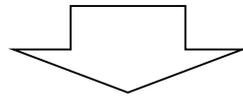
管内市町村 管内 J A	四万十市、宿毛市、土佐清水市、黒潮町、大月町、三原村 J A高知県幡多地区										
産地の特徴 主な園芸品目	<p>管内は県西部の6市町村となっており、冬季温暖な海岸部と四万十川流域を中心とした平野部では、野菜、花き、水稻、柑橘類が、また山間部では、露地野菜や特産果樹、酒米などが栽培され、地域特性を活かした多様な形態で農業が展開されている。</p> <p>近年では、環境制御技術や IPM 技術の普及、集落営農の拡大、新規就農者の確保・育成、農福連携の推進などにも取り組んでいる。</p>										
<p>人員配置</p> <p>令和2年度 22名</p> <p>令和3年度 23名</p> <p>令和4年度 22名</p>	<p>令和5年度職員総数 21名（うち実務経験が3年未満の職員 3名）</p> <table border="1" data-bbox="507 840 1364 1272"> <tr> <td colspan="2">農業改良普及課長 1名</td> </tr> <tr> <td>地域営農担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)</td> </tr> <tr> <td>産地育成第一担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)</td> </tr> <tr> <td>産地育成第二担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)</td> </tr> <tr> <td>産地育成第三担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)</td> </tr> </table> <p>※令和2、4年度は1名、3年度は2名の暫定配置</p>	農業改良普及課長 1名		地域営農担当	チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)	産地育成第一担当	チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)	産地育成第二担当	チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)	産地育成第三担当	チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)
農業改良普及課長 1名											
地域営農担当	チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)										
産地育成第一担当	チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)										
産地育成第二担当	チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)										
産地育成第三担当	チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)										
普及活動の 進捗管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点課題については、適宜チーム会（チーフ、課長を含む）を開催し、取組の進捗状況や手法、今後の活動に向けた役割等を確認しながら進捗管理している。</li> <li>一般課題については、四半期毎にチーム会を開催するとともに、問題が生じた場合は、随時、チーフ、課長を含めて対応策を協議しながら進捗管理している。</li> <li>第二四半期終了後に中間検討会を開催し、農業革新支援専門員から助言を受け、下半期の活動について検討している。</li> <li>週始めには各班内でミーティングを実施し、1週間の活動計画の共有や業務の協力依頼、調整等を行っている。</li> <li>普及活動記録や会議報告書、復命書を作成し、所属内で共有している。</li> <li>活動計画については、市町村・J Aの担当者を含めた連絡会や担い手支援チーム会、品目毎の作業部会等で共有している。</li> </ul>										

<p>職員の資質向上の取組状況</p>	<p>●職場研修（令和4年度）</p> <p>①技術研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農薬の適正使用について</li> <li>・西土佐地域の農業、四万十市の基盤整備について現地視察（基盤整備課との合同研修）</li> </ul> <p>②情報研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産地生産基盤パワーアップ事業など、国庫事業や県単事業について</li> </ul> <p>③その他研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会計事務について</li> <li>・公務員倫理（コミュニケーション）について</li> </ul> <p>●新任者を対象にしたOJT（令和4年度）</p> <p>対象：1年目職員1名、2年目職員1名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年目までの職員には各トレーナー（チーフ等）を配置。</li> <li>・普及指導員として必要な栽培技術、実証ほや現地検討会等を活用した普及方法、普及計画の策定と実践、関係機関との連携及びコミュニケーション能力など、トレーナーを中心に職場全体で育成している。</li> </ul> <p>●国段階研修（令和4年度）</p> <table border="1" data-bbox="435 981 1406 1218"> <thead> <tr> <th>研修名（自主企画課題解決研修）</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普及指導員養成研修</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>普及指導員実務能力習得研修</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>新規就農支援研修</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>6次産業化導入支援研修</td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table> <p>（参考）令和3年度の参加人数 4名</p> <p>●県段階研修（令和4年度）</p> <table border="1" data-bbox="435 1330 1406 1568"> <thead> <tr> <th>研修名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>キュウリのデータ解析技術の向上と栽培管理マニュアルの改訂</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>露地野菜への簡易雨よけハウス導入に向けた調査研究</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>普及活動で活用できる動画マニュアルの作成</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>デジタル機器を利用したユズの新たな技術指導方法の検討</td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table> <p>（参考）令和3年度の参加人数 6名</p> <p>上記の他に、普及指導員専門技術高度化研修などへ参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎研修 野菜2名、経営2名、病虫害1名、集落営農2名</li> <li>・高度化研修 普通作物2名、花き1名、果樹3名、スマート農業3名、土壌肥料1名、6次産業化1名</li> </ul>	研修名（自主企画課題解決研修）	人数	普及指導員養成研修	2名	普及指導員実務能力習得研修	1名	新規就農支援研修	1名	6次産業化導入支援研修	1名	研修名	人数	キュウリのデータ解析技術の向上と栽培管理マニュアルの改訂	4名	露地野菜への簡易雨よけハウス導入に向けた調査研究	3名	普及活動で活用できる動画マニュアルの作成	2名	デジタル機器を利用したユズの新たな技術指導方法の検討	1名
研修名（自主企画課題解決研修）	人数																				
普及指導員養成研修	2名																				
普及指導員実務能力習得研修	1名																				
新規就農支援研修	1名																				
6次産業化導入支援研修	1名																				
研修名	人数																				
キュウリのデータ解析技術の向上と栽培管理マニュアルの改訂	4名																				
露地野菜への簡易雨よけハウス導入に向けた調査研究	3名																				
普及活動で活用できる動画マニュアルの作成	2名																				
デジタル機器を利用したユズの新たな技術指導方法の検討	1名																				
<p>タブレット等ICT技術の活用状況について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地での生育調査のデータ入力、環境データの収集や情報提供</li> <li>・労働力確保やカイゼン等のための作業動画作成</li> <li>・生産者や関係機関とのIoPクラウド「SAWACHI」に関する研修会</li> <li>・オンライン会議（各種Web会議、研修等）</li> </ul>																				

## 外部評価対象課題の普及実績（R4年度）及び計画（R5年度）の概要

所属名	幡多農業振興センター農業改良普及課																						
課題名	幡多の中山間地域を支える地域営農システムの確立 ～集落営農組織設立から広域連携組織の育成～																						
取組期間	令和2～5年度																						
対 象	集落営農組織未設立集落、関係機関、集落協定多面活動組織 既存集落営農組織（任意組織） 法人組織及び中山間農業複合経営拠点 広域連携組織																						
ねらい	<p>1. 新規集落営農組織設立 高齢化がさらに進む中、農地を継続して維持管理していくためには、新たな集落営農組織の設立が求められている。</p> <p>2. 既存組織の活動強化 高齢化による労働力不足で活動が滞っている組織や、後継者不足により将来への継続性に不安を抱える組織が見られるようになってきた。既存組織の現状把握と活動強化により継続可能な組織にしていく必要がある。また、法人化について推進する。</p> <p>3. 法人組織の経営安定 規模拡大や生産性の向上、園芸品目等の導入により売上げを増加し、雇用確保につながることで後継者を育成できるよう支援していく必要がある。</p> <p>4. 広域連携の推進 組織の活動強化や、労働力不足の組織、組織の無い地域をカバーするために広域連携に取り組み、地域全体の農業・農地を守る仕組みづくりが必要となっている。</p>																						
令和4年度の主な実績	<p>1. 新規集落営農組織設立 三原村で集落営農組織設立に向けた協議を行い、1組織設立された。</p> <p>2. 既存組織の活動強化 三原村の任意組織と土佐清水市の広域連携組織が法人化し、組織の継続・発展に向けた体制が強化され、集落営農法人は20組織となった。</p> <p>3. 法人組織の活動支援 8組織が県事業で施設・機械を導入し、規模拡大や活動強化につながった。 8法人が目標販売額を達成した。また、2法人が常時雇用を行い、組織の後継者確保に取り組んでいる。</p> <p>4. 広域連携の推進 四万十市中村地域、西土佐地域で、広域連携への参加意向がある組織を確認できた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状（R3）</th> <th>目標（R4）</th> <th>実績（R4）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規組織設立（単年度）</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>法人化組織数</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>経営計画目標販売額達成組織数</td> <td>7</td> <td>17</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>広域連携組織数</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>			項目	現状（R3）	目標（R4）	実績（R4）	新規組織設立（単年度）	0	1	1	法人化組織数	18	19	20	経営計画目標販売額達成組織数	7	17	8	広域連携組織数	2	4	2
項目	現状（R3）	目標（R4）	実績（R4）																				
新規組織設立（単年度）	0	1	1																				
法人化組織数	18	19	20																				
経営計画目標販売額達成組織数	7	17	8																				
広域連携組織数	2	4	2																				

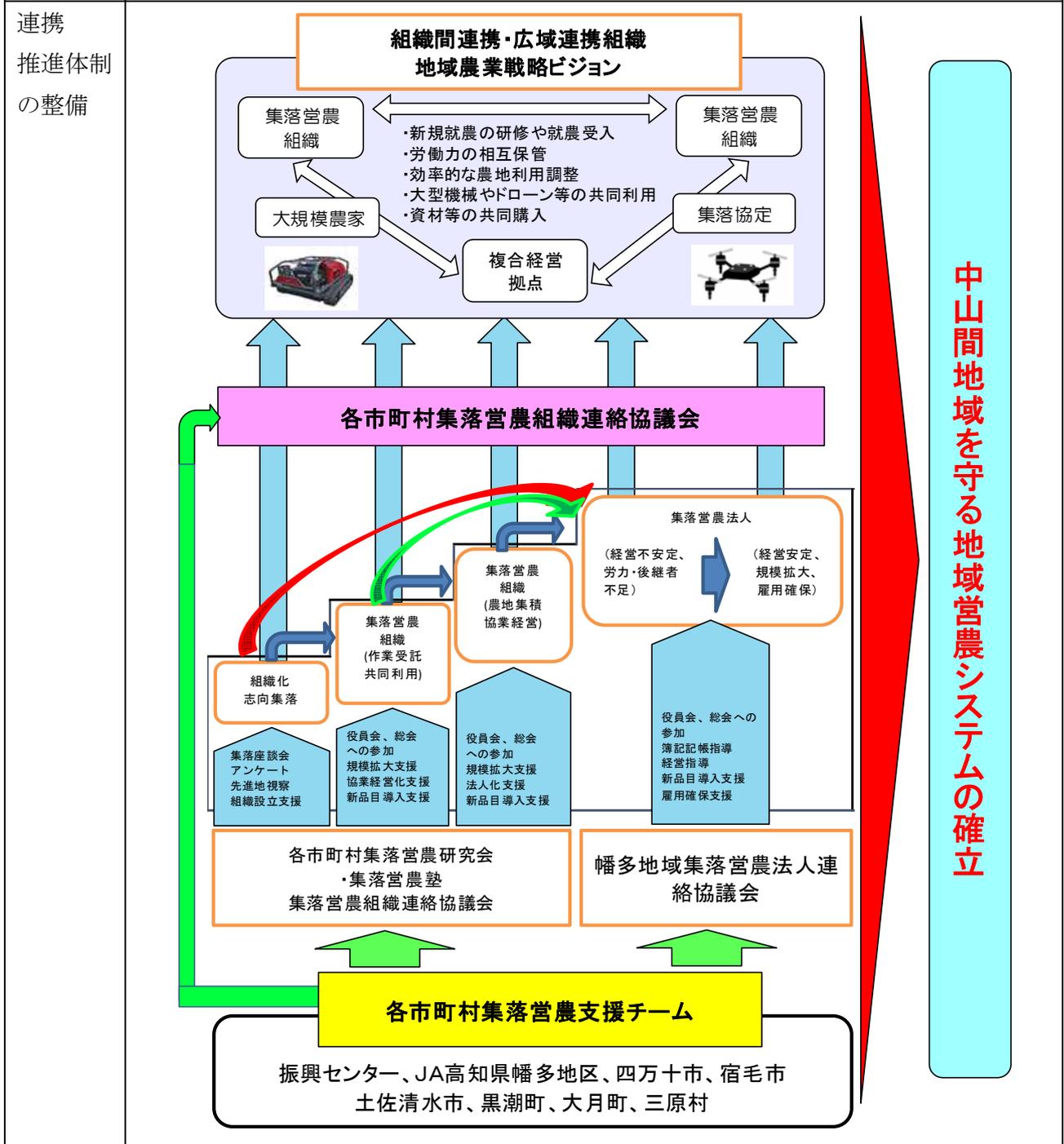
令和4年度の主要な活動内容と実施時期	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新規集落営農組織設立 <ul style="list-style-type: none"> <li>・集落営農説明会の開催、組織化に向けた情報提供（5～3月）</li> <li>・三原村の2集落合同で組織設立準備委員会を設置、組織設立に向けて支援（12～3月）</li> </ul> </li> <li>2. 既存組織の活動強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・任意組織の活動状況聞き取り調査を実施、現状や課題を把握（4～3月）</li> <li>・法人志向の2組織について、定款、規約・規程の作成や登記申請を支援（10～2月）</li> </ul> </li> <li>3. 法人組織の活動支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各組織の役員会等での組織運営支援や栽培指導を実施（4～3月）</li> <li>・ドローン導入組織が参集した幡多地域ドローン利用者連絡協議会を設立（1月）</li> <li>・幡多地域集落営農法人連絡協議会を開催し、情報提供と意見交換を実施（7～1月）</li> </ul> </li> <li>4. 広域連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・土佐清水市営農推進協議会の取組支援（4～3月）</li> <li>・四万十市中村地区、西土佐地区で広域連携に向けて協議（6～3月）</li> </ul> </li> </ol>
--------------------	--



令和5年度の主な目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新たな集落営農組織の設立</li> <li>2. 既存組織の活動強化</li> <li>3. 法人組織の経営の安定化</li> <li>4. 広域連携の推進</li> </ol> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #e0f2f1;"> <th style="padding: 5px;">項目</th> <th style="padding: 5px;">現状（R4）</th> <th style="padding: 5px;">目標（R5）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;">新規組織設立（単年度）</td> <td style="padding: 5px;">1</td> <td style="padding: 5px;">1</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">法人化組織数</td> <td style="padding: 5px;">20</td> <td style="padding: 5px;">21</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">経営計画目標販売額達成組織数</td> <td style="padding: 5px;">8</td> <td style="padding: 5px;">18</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">広域連携組織数</td> <td style="padding: 5px;">2</td> <td style="padding: 5px;">4</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状（R4）	目標（R5）	新規組織設立（単年度）	1	1	法人化組織数	20	21	経営計画目標販売額達成組織数	8	18	広域連携組織数	2	4
項目	現状（R4）	目標（R5）														
新規組織設立（単年度）	1	1														
法人化組織数	20	21														
経営計画目標販売額達成組織数	8	18														
広域連携組織数	2	4														
令和5年度の主要な活動内容と実施時期	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新規集落営農組織設立 <ul style="list-style-type: none"> <li>・集落営農未設置集落への意識啓発、情報提供（4～3月）</li> <li>・組織設立に向けた協議（4～6月）、設立に向けた支援（7～3月）</li> <li>・先進地視察研修（10～12月）</li> </ul> </li> <li>2. 既存組織の活動強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の運営支援および協業品目の栽培指導（4～3月）</li> <li>・事業導入支援、営農計画作成支援（4～12月）</li> <li>・法人志向組織の法人化協議、設立支援（4～3月）</li> <li>・先進地視察研修（10～12月）</li> </ul> </li> <li>3. 法人組織の経営安定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の組織運営支援（4～3月）</li> <li>・水稲、野菜、果樹の栽培指導（4～3月）</li> <li>・簿記記帳指導、労働力確保や経営分析についての情報提供（4～3月）</li> </ul> </li> </ol>															

	<p>4. 広域連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域連携の取組内容の検討、連携組織の立ち上げに向けた協議（4～9月）</li> <li>・広域連携組織の運営支援（4～3月）</li> <li>・機械の共同利用や肥料等資材の共同購入に向けた実態調査、検討（4～3月）</li> </ul>
--	---

所内体制	集落営農担当：5名、品目担当：5名、地域営農担当チーフ：1名、産地育成担当チーフ3名
------	--



## 令和4年度 普及指導活動実績の概要一覧

幡多農業振興センター農業改良普及課

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	実績	達成状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
重点1	新規就農者の確保・育成	17	研修生確保数	7名 (R3)	7名 (R4)	6名 (R4)	△	新規就農希望者20名に、支援チームがのべ33回面談を実施した結果、研修生6名を確保できた。	
			認定新規就農者数	8経営体 (R3)	10経営体 (R4)	10経営体 (R4)	○	農業基礎講座を10回(21講座)実施した。また、就農計画の作成をのべ35回支援し、10経営体が認定された。	
			目標収量 達成農家率	38%	60%	45%	△	支援チームによる巡回指導を行い、前年度よりも達成農家率は向上した。しかし、露地栽培農家の達成率が低く、目標値には届かなかった。	
重点2	環境制御技術の導入とレベルアップ	12	キュウリ反収 (1月末/園芸年度)	9.3/23.1t	9.1/25t	8.1t	△	秋期の高温の影響で平年よりも実となる雌花が少なかったため、目標を達成できなかった。一方、若手農家が中心となり、データ共有グループが結成され、農家自身がデータを参考に栽培管理を見直すようになってきた。	
			ニラ反収 (1月末/園芸年度)	3.6/7.1t	3.5/7.3t	3.0t	△	夏季の高温等により株が充実せず、目標収量には届かなかったが、環境測定装置の導入が進んだことで、データを活用した栽培管理が広がり始めた。	
			ナス反収 (1月末/園芸年度)	4.5/15.9t	6.2/19t	5.7t	△	環境制御技術によりハウス内環境を改善したことで、前作よりも収量は増加したが、目標収量には届かなかった。	
			トマト反収 (1月末/園芸年度)	3.4/8.6t	4.4/11t	3.2t	△	換気により天窗やサイドが開くため、炭酸ガスの効果が十分に発揮できず、目標収量には届かなかった。引き続き、栽培管理の改善に取り組む。	
			環境制御技術導入面積率 (主要6品目)	54%	65%	58%	△	関係機関と連携して補助事業を活用した結果、環境測定装置の普及は進んだが、部会など組織に対する働きかけが不十分であったため、目標値には届かなかった。	
			環境制御技術 導入面積率 (イチゴ)	72%	92%	100%	○	定期的に現地検討会や勉強会を開催した結果、若手農家全8戸が環境測定装置を導入し、データ駆動型農業を推進する基盤ができた。	
			データ活用農家数	31戸	36戸	36戸	○	関係機関と連携して推進した結果、SAWACHI利用者が115戸となり、データ活用農家も増えてきた。今後は農家、指導員のスキルアップが急がれる。	
重点3	幡多の中山間地域を支える 地域営農システムの確立	16	新規組織設立数	0	1	1	○	関係機関と連携し、集落座談会や研修会を実施した結果、新規1組織が設立し、集落の農地を守っていく体制ができた。	
			法人化数	18	19	20	○	集落営農組織1組織と広域連携組織1組織が法人化し、地域の農地を守っていく体制が強化された。	
			目標販売額 達成組織数	7	17	8	△	役員会で組織運営や事業申請等を支援し、8組織が目標販売額を達成した。また、2組織には収益向上のために、ロードマップの作成を支援した。	
			広域連携組織数	2	4	2	△	連絡協議会や研修会を開催した結果、新たに2地域で広域連携への参加希望組織を確認できた。	

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	実績	達成状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
一般1	GAPの取組推進	13	取組シート実施件数	25	33	34	○	各品目の個別巡回や勉強会で啓発活動に取り組んだ結果、取組件数は34件に増え、定着してきた。また、法人組織や若手を中心に、取組意欲のある生産者がでてきた。	
一般2	三原村農業公社を中心にしたユズ産地の育成	3	公社出荷量	180t	220t	112t	△	県下的な裏年傾向と害虫の発生等により、出荷量は伸び悩んだ。栽培管理技術を向上する必要がある。	
			新規研修生	0名	1名	0名	△	HP等でPR活動を行ったが、研修生の確保には至らなかった。指導農業士が1名認定され、研修生受入の間口が広がった。	
一般3	西土佐地区米ナス産地の振興	2	平均収量	5.2t/10a	7t/10a	5.4t/10a	△	台風や暑さの影響で収量は伸び悩み、目標収量を達成できたのは2戸であった。	
			共選の試行	試行	共選実施	試行	△	共選に向けた選果員確保や導入経費等の具体案を部会に提案できたが、実施までには至らなかった。	
一般4	農福連携による労働力確保	3	試行就労数	0件	1件	2件	○	市町村や支援機関との連携を強化したことで、試行就労件数が2件となった。	
一般5	促成キュウリの新規就農者支援	4	目標収量 達成農家数	3/6戸	6/7戸	3/7戸	△	秋期の高温の影響で平年よりも実となる雌花が少なかったため、達成農家数は3戸にとどまった。SAWACHIのデータ共有グループを結成し、環境データの比較や現地検討会での意見交換の場を整備した。	
一般6	次代を担う後継者の育成を核とした土佐文旦産地の振興	2	3t/10a 達成農家数	7戸	12戸	11戸	△	実証ほ設置や現地検討会、個別巡回指導により、若手農家の栽培技術向上への関心を高めることができた。	
一般7	飼料用米の生産振興	5	標準反収以上 農家率	46.9%	60%	42.9%	△	専用品種の反収減少や高温不稔等により、標準反収以上の農家率は前年より減少した。品種については、さらに検討する必要がある。	
一般8	6次産業化の推進	2	販売金額	販売なし	10万円	3.7万円	△	販売体制を整備するとともに、支援チーム会の開催やセミナーの受講を通じて、2商品を試験販売できたが、年度内の商品完成に至らなかったため、本格販売ができず、売上は3.7万円にとどまった。	

## 令和5年度 普及指導活動計画の概要一覧

幡多農業振興センター農業改良普及課

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主な手法	チェック欄
重点1	新規就農者の確保・育成	19	研修生確保数	6名 (R4)	7名 (R5)	市町村の枠を越えた研修生受入体制の確立、就農希望者への情報提供、県内外への産地PR支援	
			認定新規就農者数	10経営体 (R4)	10経営体 (R5)	農業基礎講座の実施、就農計画作成支援(支援チームによる面談)	
			目標収量(1~12月)達成農家率	45%	60%	巡回による栽培指導、支援チームによる営農状況、経営収支、課題、改善点の確認	
重点2	環境制御技術の導入とレベルアップ	12	キュウリ反収(1月末/園芸年度)	8.1/25t	9.4/26t	環境データに基づく栽培管理巡回指導、防除体系に基づく病害虫防除巡回指導	
			ニラ反収(1月末/園芸年度)	3/7.3t	3.8/7.5t	環境測定機器導入農家グループ化の推進、勉強会の開催、環境データ活用による温湿度管理指導	
			ナス反収(1月末/園芸年度)	5.7/18t	7.2/20t	環境測定機器導入農家グループ化の推進・勉強会の開催、環境データに基づく栽培管理巡回指導	
			トマト反収(1月末/園芸年度)	3.2/11t	4.8/12t	調査ほにおけるバランスシートを活用した巡回指導、若手勉強会の開催	
			イチゴ反収(1月末/園芸年度)	0.75/3.2t	0.84/3.5t	環境データ及び生育データに基づく感度管理巡回指導、SAWACHI接続農家のグループ化推進、勉強会の開催	
			環境制御技術導入面積率(主要6品目)	58%	80%	農家への機器・事業等の推進、勉強会の開催、データ活用に関する指導者向け勉強会の開催	
重点3	幡多の中山間地域を支える地域営農システムの確立	14	新規組織設立数	1	1	関係機関と連携し、集落営農組織未設置集落への意識啓発、情報提供(集落座談会等)	
			法人化数	20	21	組織の運営支援、法人志向組織の法人化協議(役員会)	
			目標販売額達成組織数	8	18	組織の運営支援、各品目の栽培指導(実証ほ設置、巡回、講習会)、簿記記帳指導	
			広域連携組織数	2	4	組織の運営支援、連携組織の立ち上げに向けた協議(集落営農組織連絡協議会等)	

一般1	GAPの取組推進	16	新規改善 取組農家数	0	2	GAPの啓発、取組支援(個別巡回、部会等)、 重点指導農家の取組支援
一般2	三原村ユズ産地の育成	3	公社生産量 青果出荷量	112t 24t	200t 45t	生育、管理状況の確認、栽培管理技術の現地指導
			研修生	0名	候補者1名	研修生募集方法の検討、募集支援、受入支援
一般3	西土佐地区米ナス産地の振興	2	雨よけ収量 7t/10a農家数	2/8戸	4/6戸	個別加てや作業チェックを活用した栽培技術指導、現地検討会や若手勉強会の開催
			共選の実施	試行	R6共選実施決定	共選の仕組みづくり(情報交換会、部会役員会・現地検討会)、合意形成(部会総会等)
一般4	農福連携による労働力確保	3	新たな試行就労数	2件(R4)	1件(R5)	連携協議会の開催、農業者・関係機関への周知活動、福祉関係者との情報共有
一般5	促成キュウリ産地における考える担い手の育成	3	目標収量達成農家数 (1月末時点)	3/7戸	8/8戸	生育診断に基づく栽培管理指導(巡回、現地検討会)、若手勉強会の開催、アドバイザー(篤農家)との巡回指導
一般6	次代を担う後継者の育成を核とした土佐文旦産地の振興	3	3t/10a 達成農家数	11戸	15戸	若手後継者への栽培管理指導(巡回、講習会)、環境データ活用実証ほの設置
一般7	飼料用米の生産拡大	3	R6鶏糞活用取組面積 (集落営農法人)	44ha	100ha	実証ほ設置(鶏糞堆肥試験、品種試験等)、栽培管理指導(巡回、現地検討会)、飼料用米品種に関する情報提供
一般8	6次産業化の推進	2	販売額	21万円	70万円	課題解決に向けた実践活動(個別指導・実習)、セミナー参加に向けた支援
一般9	非辛みシシトウの導入推進	5	次年度栽培株率	8%(R5)	15%(R6)	実証ほ・調査ほの設置、栽培技術の検討(巡回、チーム会、作業部会)、情報発信(食味会、現地検討会)

令和5年度普及活動外部評価会  
普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言

**幡多農業振興センター農業改良普及課**

(○評価会で発表 ●評価表に記載)

	評価項目	評価及び感想・ご意見
普及指導活動の体制	・課内（所内）の分担	<ul style="list-style-type: none"> <li>●職員の体調等にも配慮できていることがわかった。</li> <li>●管内が広い中で、効率的に活動する体制となっている。</li> <li>ただ、40歳代の職員が一人だけは業務遂行上厳しくも感じる。</li> </ul>
	・活動の進ちよく管理の体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>●P D C Aサイクル実施が一定できているが、CとAが若干弱いようにも感じる部分がある。</li> <li>●所内のチーム会や各市町村との支援チームで進捗管理ができている。</li> </ul>
	・普及指導員の資質向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●再任用者（ベテラン）も活用し、若手育成に注力している。</li> <li>●普及課だけでなく、基盤課とも連携するとともに、研修の実施もできている。</li> </ul>
普及指導活動の計画	・普及課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域に寄り添った計画で様々な取り組みが設定できている。</li> <li>●この先の自然推移する管内の農家戸数や耕地面積等の中長期的な視点（例えば2025年、2030年）での予測推移をどう捉えているか。また、水稻の10aあたり収支の目標値をどう設定しているか。これらに対して課題ごとの評価指標の設定が適切であることがわかりやすいと思う。</li> <li>●法人化に向けた取り組みは後継者確保の点からも非常によいと感じた。</li> </ul>
	・対象の設定	●対象を明確にし、対象に合わせた活動ができている。
	・関係機関との連携	●関係機関等との連携ができていることがうかがえた。
	・目標設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●重点3について、経営計画目標販売額達成組織数を高い目標設定したことは評価できる。</li> <li>●課題によっては目標値の設定がわかりにくい。例えば反収（1月末/園芸年度）。</li> </ul>
普及指導活動の成果	・活動の経過	●法人化の支援はインボイス制度への対応も必要に感じた。
	・実績 (活動の結果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●概要一覧で反省点等の内容がほとんど記載されていない。</li> <li>○ドローンを活用した防除への取り組みがとてもよかった。</li> </ul>
	・成果 (目標達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●組織設立以上に組織を維持し続けることが難しいと感じた。新しい組織を設立することも大切であるが、既存組織による地域拡大や組織同士の合併も視野に入れて活動支援してもらいたい。</li> <li>●法人化の手段による効率化の効果が発揮されている。</li> </ul>
	・結果の周知	

#### 外部評価、総合所見等

- 地域の特性を活かした普及活動ができている。組織を作ることとは人と人とのつながりが大事であるので、普及指導員の努力のたまものであると感じた。農家の協同する力も向上すると思う。
- 組織に必要な課題と今後の方向性を設定して中山間地域と農家・農地を守る取り組みができている。
- 集落営農組織の生産物の加工・販売が課題であると感じたので検討をお願いしたい（例えば、ネット販売やふるさと納税の返礼品など）。
- 集落営農組織の法人化は生産性向上以外にも信用力や人材確保、事業承継先の選択幅の拡大、税制優遇などメリットが多く、それを意識した活動に今後も取り組んでもらいたい。
- 広範囲な管内に多様な品目があり、多くの課題が設定されている。所内運営や進捗管理等に工夫が必要と思うが、チーム会等を活用して全体管理がよくできていると感じた。

## 令和5年度普及活動外部評価会

### 普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言

#### (全体をととして)

#### 1 普及指導活動の体制（課内の分担・活動の進ちよく管理・普及指導員の資質向上の取組）

- ・現地調査を通じて、若い職員が農家にしっかり寄り添って伴走支援していることを目の当たりにすることができ、とても驚くとともに頼もしさを感じる事ができた。
- ・JA高知県に統合してから5年目となったが、営農指導員の人数や資質面で組織力強化を図っていく必要性を感じている。データ駆動型による指導方法等は、営農指導員と普及指導員とが連携して取り組みを進めていくことで、両組織の資質向上と組織力強化に努めてもらいたい。
- ・昔と比べて職員数が減少した中で、困難な問題に取り組むことはとても大変と思うが、今後の高知県農業のために尽力してほしい。

#### 2 普及指導活動の計画（普及課題の設定・対象の設定・関係機関との連携・目標設定）

- ・地域毎の課題に対して真摯に向き合い、試行錯誤して取り組んでいることがよくわかった。
- ・中長期的視点で地域や産地の「あるべき姿」を定め、それに向けて取り組むべき課題の設定と、課題を達成するための活動となっているかを今一度確認していただき、来期の活動につなげてもらいたい。
- ・生産だけでなく、経営、流通、販売等も含めた一体的な農業の在り方を目指した活動をしてもらいたい。
- ・活動の結果が自然環境等の外部要因に左右されており、数値として評価することが難しいことは理解できたが、活動内容を評価しやすい指標の設定について工夫してもらいたい。
- ・年々気象条件の変動が激しくなっており、勘に頼る栽培管理ではなく、IoT技術を活用したデータ駆動型農業へ移行していくことは重要である。その一方で、資材や労働を投入して収量を増やしていく足し算の経営だけでなく、引き算の視点でも栽培技術や経営を分析・検討することも重視すべきである。対象とする農家や組織の目指すべき経営を見据え、農業を取り巻く情勢にも柔軟に対応した活動をお願いしたい。

#### 3 普及指導活動の成果（活動の経過・実績・成果・結果の周知）

- ・今後の農業のあり方を考えても集落営農組織の法人化に取り組んでいる点は非常に評価できる。集落営農組織については地域が高齢化してしまう前に法人化できるように引き続き推進してもらいたい。
- ・結果的に評価は△となっている課題もあるが、農家の意識や行動をすぐに変えることは難しいと思うので、単年で結果が出なくても気長に寄り添って支援してもらいたい。
- ・農業新聞等のメディアも活用して普及活動の成果や取り組み内容をPRしてほしい。

#### 4 その他

- ・普及組織が地域の生産者に寄り添って活動しており、苦勞されていることが伝わった。
- ・法人化についてとても興味深く感じ、個人的にも勉強になった。
- ・販売経路は多様化しているので、「とさのさと」も活用した取り組みも考えてもらいたい。
- ・野菜王国高知の奪還を目指してがんばってほしい。

## 評価結果に対する普及指導計画（活動）の改善方向

普及活動外部評価委員の皆様におかれましては、外部評価および評価委員会で時間をかけて評価をしていただき、誠にありがとうございました。

評価委員の皆様からのご意見を踏まえ、本年度及び令和6年度以降の普及指導活動の体制や方法、また、外部評価の実施方法等について改善に努めてまいります。

主な評価結果と改善方向は次のとおりです。

項目	評価結果	今後の改善方向
普及指導活動の体制	○データ駆動型による指導方法等は、営農指導員と普及指導員とが連携して取り組みを進めていくことで、両組織の資質向上と組織力強化に努めてもらいたい。	○各普及課所において、指導員向けの勉強会を実施する等、データ駆動型の指導の有用性や指導方法を理解し、役割分担もしながら互いに協力して農家指導に取り組む。
普及指導活動の計画	○中長期的視点で地域や産地の「あるべき姿」を定め、それに向けて取り組むべき課題の設定と、課題を達成するための活動となっているかを今一度確認していただき、来期の活動につなげてもらいたい。	○次年度から始まる新たな重点課題を作成するにあたり、現状をしっかりと把握して中長期的視点で地域や産地の「あるべき姿」を描き、そのために達成すべき目標を設定した計画を策定する。
	○生産だけでなく、経営、流通、販売等も含めた一体的な農業の在り方を目指した活動してもらいたい。	○普及指導員として、生産分野以外についてもこれまで以上に目を向け、課題に応じて強化すべき分野にも挑戦する活動を展開する。
	○活動の結果が自然環境等の外部要因に左右されており、数値として評価することが難しいことは理解できたが、活動内容を評価しやすい指標の設定について工夫してもらいたい。	○産地や地域、組織のあるべき姿を生産量や品質、農家戸数等で表記することが多い。これらを評価指標にすることもあるが、課題の普及事項に応じて対象の変化や評価時の進捗がわかりやすい指標を選択するように工夫する。

	<p>○年々気象条件の変動が激しくなっており、勘に頼る栽培管理ではなく、IoT 技術を活用したデータ駆動型農業へ移行していくことは重要である。その一方で、資材や労働を投入して収量を増やしていく足し算の経営だけでなく、引き算の視点でも栽培技術や経営を分析・検討することも重視すべきである。対象の農家や組織の目指すべき経営を見据え、農業を取り巻く情勢にも柔軟に対応した活動をお願いしたい。</p>	<p>○農家の経営安定を図る上で今後も引き続き、データ駆動型農業を推進する。その一方で、農業振興するうえでは、農家の経営規模、農業を取り巻く情勢を踏まえ、資材や労働力を投入して収入を増やすべきか、コスト削減で支出を抑えるべきかを分析・検討して指導する。</p>
項目	評価結果	今後の改善方向
普及指導活動の成果	<p>○今後の農業のあり方を考えても集落営農組織の法人化に取り組んでいる点は非常に評価できる。集落営農組織については地域が高齢化してしまう前に法人化できるように引き続き推進してもらいたい。</p> <p>○結果的に評価は△となった課題もあるが、農家の意識や行動をすぐに変えることは難しいと思うので、単年で結果が出なくても気長に寄り添って支援してもらいたい。</p> <p>○農業新聞等のメディアも活用して普及活動の成果や取り組み内容をPRしてほしい。</p>	<p>○今後の地域農業を持続していくうえで、集落営農組織の法人化は重要と考えている。普及課所としても、集落営農組織や大規模経営農家等の法人化を見据えた活動に取り組んでいく。</p> <p>○普及指導活動はPDCAサイクルを意識した活動であるが、別委員からは内部でのCとAが不十分という指摘があった。評価結果が△になった要因をしっかりと分析し、農家の心理的变化を促すことのできる活動となるよう創意工夫して継続的に取り組む。</p> <p>○外部向けには普及活動情勢報告のこうち農業ネットへの掲載や農業新聞の「高知の普及最前線」掲載等に取り組んでいるところであるが、今後も農業新聞通信員等から農業新聞への寄稿に取り組む。</p>

<p>外部評価に対する意見</p>	<p>○現地調査を通じて、若い職員が農家にしっかり寄り添って伴走支援していることを目の当たりにすることができ、とても驚くとともに頼もしさを感じることができた。</p>	<p>○普及現場では全体の44%を20～30代が占めており、令和5年度の重点課題チーム長には、24課題中3課題を20代、11課題を30代が担当している。今後も若手世代がチームを牽引できるように、各普及課所で資質向上とチーム体制づくりに努める。</p>
<p>その他</p>	<p>○販売経路は多様化しているので、「とさのさと」も活用した取り組みも考えてもらいたい。</p>	<p>○新たな品目・品種や加工品のPRの場として活用するような取り組みを検討する。</p>